

第54回ITER機構職員募集説明会でのQ&A

1. 日時・場所

平成24年9月3(月)–7日(金)

奈良県新公会堂

(放射線遮蔽国際会議・第17回米国原子力学会放射線防護遮蔽部会会合)

2. 来訪者: 30名

3. 説明概要:

放射線遮蔽国際会議・第17回米国原子力学会放射線防護遮蔽部会会合の展示エリアにおいて、来訪者に核融合、ITERなどに関する資料を配布し、ITER計画について説明するとともに、ITER機構職員募集および登録の案内を行った。(ITER計画管理グループ 大原、北澤)

4. 主なQ&A

Q: ITER計画とはどのようなものですか？

A: 水素の核融合を用いて地上に太陽を作るために、日欧米露中印韓の7か国により、南フランスのカダラッシュにトカマク核融合実験装置を作るプロジェクトです。

Q: カダラッシュには、何人くらいの日本人が働いていますか？

A: ITER機構の職員として30人弱、他に契約職員として数人が働いています。

Q: (タングステン繊維の開発を行っている日本の企業の研究者より)ITERでは大量のタングステンを使用すると聞いたのですが、どのようなところに使用されますか。

A: 炉内機器の断面図の一番下にあるダイバータと呼ばれる熱を取り出す装置の表面の材料として用います。高い熱負荷や粒子が当たった時の蒸発を少なくするために、タングステンが用いられています。

Q: ITERの職員は、六ヶ所にはいないのですか？

A: ITER機構の職員の勤務地はすべてカダラッシュです。カダラッシュにあるITER機構と六ヶ所村にある国際核融合エネルギー研究センターは、別組織です。

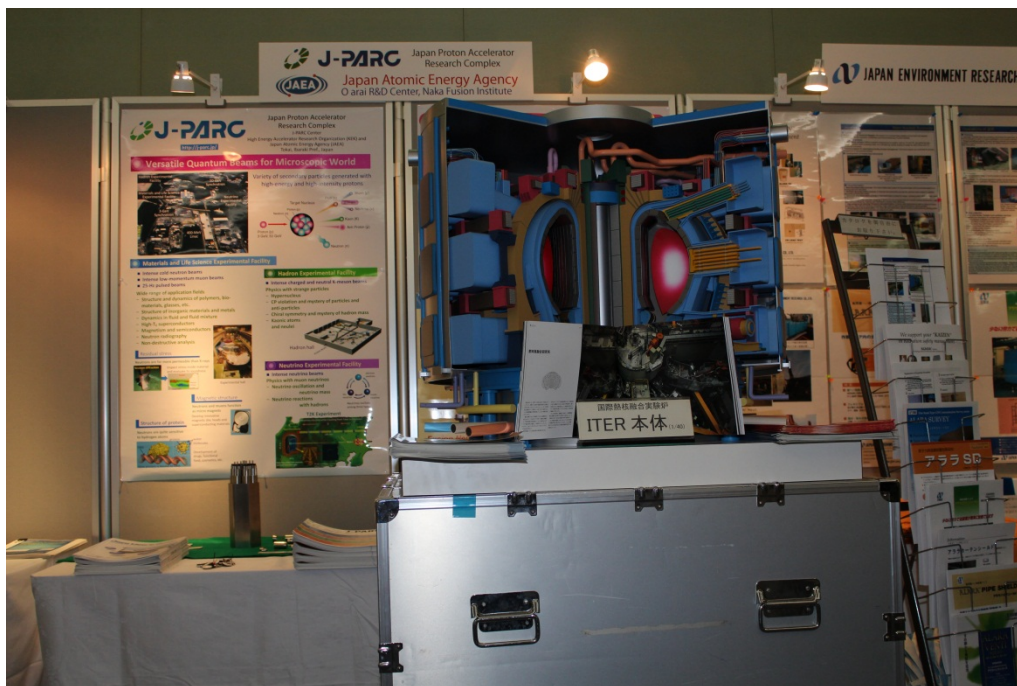
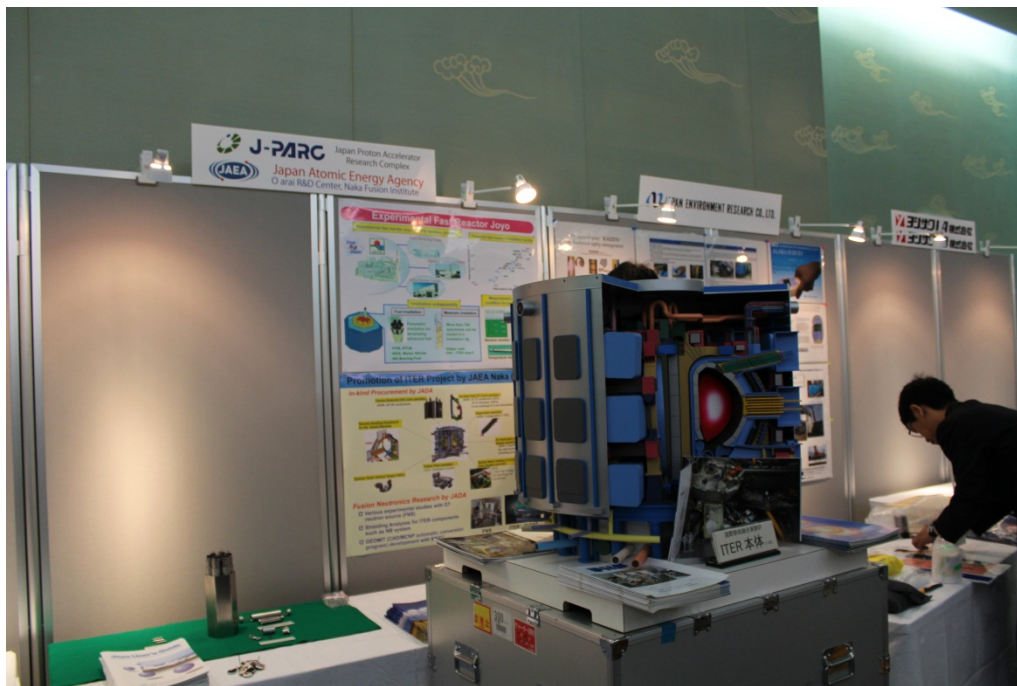
Q: ITERでは、放射線の遮蔽はどのように用いられていますか？

A: ITERでは、核融合炉内のD-T反応で、14.1MeVの中性を発生するので、その遮蔽が必要です。また、トリチウムを用いるための放射線の遮蔽も必要となります。

Q: ITERが完成するのはいつですか？

A: 建設期が終わり試運転が行われるのが2020年、本格的なD-T運転が2027年開始です。

以上



展示エリアの様子